

園 評 価 の 結 果 に つ い て

学校法人 北邦学園
認定こども園桜台いちい幼稚園・保育園

令和4年度に実施した認定こども園桜台いちい幼稚園・保育園の自己評価の結果の概要は、次のとおりです。

建学の精神 「自然から学ぶ」

1 本園の教育保育目標

- ◎思いやりのある子
- ◎丈夫で明るい子
- ◎想像力の豊かな子
- ◎やる気のある子

【各学年のねらい(年間)】

- 0歳児 保育教諭に親しみ、安心した気持ちの中で様々なものに興味をもちながらのびのびと遊ぶ事を楽しむ
- 1歳児 身近なものに興味をもち、保育教諭や友達との関わりを楽しみながら遊ぶ
- 2歳児 様々な遊びに関心をもって遊ぶ中で、自分から関わりながら、友達と一緒に遊ぶことを楽しむ
- 3歳児 様々な遊びや活動に興味をもって取り組む中で、自分なりに気持ちを表現し、いろいろな友達と関わりながら楽しく遊ぶ
- 4歳児 様々な活動に目的をもって取り組む中で、いろいろな友達に自分の考えや気持ちを言葉で伝え合いながら、一緒に遊びを楽しむ
- 5歳児 一人ひとりが見通しをもって様々な活動に意欲的に取り組み、いろいろな友達と互いに気持ちや考えを認め合いながら自信をもって遊びや活動を進める。

自己評価	評価内容
「B」	<ul style="list-style-type: none">・どの年齢も概ね達成したように感じられた。・ねらいの設定の段階では、年中長の『伝え合う』、『認め合う』がどこまで成長として繋げていけるかがポイントと感じていたが、年度末の子どもの姿を見ていると、その部分を意識して援助出来たことが、学びの芽生えとなり大きく成長するきっかけとなったように感じた。今後も色々な学年での学び合いを大切にしながら進めていきたい。

(A：成果が上かった。 B：ある程度成果が上がった。 C：もう少し努力が必要。 D：改善が必要。)

2 重点的に取り組んだ目標・計画について

(A：成果が上かった。B：ある程度成果が上がった。C：もう少し努力が必要。D：改善が必要。)

課 題	具体的な取組み方法
保育教諭の 主体性の向上	<p>☆職務に対する意欲の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学园内での研修（新人研修・中堅研修・チーフミティング他） ・外部での研修 ・学年内や個別での話し合い ・職場の環境・雰囲気作り
【自己評価】 「B」	<p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の主体性・意欲の向上のためには、先ず職務に対する意識とそこに繋がる計画的な仕事の進め方と思い、各学年で計画表を作ったり話し合いの場を設け、工夫を行った。 ・夢と期待をもって入職したものの、現実とのギャップで意欲を損なわないよう、状況を見て個別面談などの話し合いの場を設けたり、職場内の雰囲気作りにも努めた。 ・様々な研修を受講することで、職務に対する意欲へと繋げ、より視野を広くもち、資質向上に努めることが出来たと感じた。 ・行事や日々の保育活動を通して、楽しかった保育や成功例などを話す場を設けたことで、職員一人ひとりの意欲や主体性の発揮へと少しずつではあるが繋がっていると感じた。
保育環境整備 や環境構成の 創意工夫	<p>☆環境の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊戯室や保育室の環境整備の見直し ・玩具の見直しと充実 ・園内研究を通しての環境整備や構成の工夫と改善
【自己評価】 「B」	<p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な保育環境を見直し遊びの充実化を図った。シルフィ号では、玩具がなくとも、視覚的な掲示をすることで、子どもたち一人ひとりが遊びのイメージを膨らませながら、環境を生かし工夫した遊びを展開していた。また、環境を見直したところ、柵の幅感覚や小さなささくれなどにも、早急に対処した。 ・小山の芝生に関しては、何度か再度植えてみたものの芝の根付きが悪い状態が続いている。今後も引き続き整備を行っていききたい。 ・今年度の園内研究の取り組みとして、環境構成についての学びを深めるための主題設定を行い、実践に取り組んだ。日々使用している玩具の使い方や年齢に応じた遊びの発達や継続のために必要な環境の工夫と援助を見つめ直し、改善に努めた。そのことにより、これからの課題点や着目点にも気づき、実りある結果へと繋がった。今度はそれらを生かした保育の充実化に努めていきたい。

<p>保護者理解と連携の強化</p>	<p>☆保護者理解の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPブログの定期的な更新。 ・「コドモン」を活用した保護者との連携。 ・配布物の内容検討と見直し。 ・保護者との連携。(送迎時や電話での会話を充実させる) <p>*コロナの状況もあるため、できる限りの範囲を意識して行う。</p>
<p>【自己評価】 「C」</p>	<p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでも意識し努力はしてきたものの、昨年度のアンケートの中でも、配信物についてのご意見を多くいただいたため、内容の確認・記載内容の簡潔化を意識して作成を行った。だがしかし、まだまだ改善と努力が必要と感じる。 ・コドモンの活用については、乳児の保育日誌を始め、お手紙の配信など、いつでも活用しやすいことは、利便性もよく保護者の有効利用へと繋がっていると感じた。今後も検温など更なるコドモンでの活用方法を見直し充実化を図りたい。 ・保護者からの問合せに対しても、担任を中心として職員間でもその内容を共有し、一人ひとりが丁寧に関わり、連携に繋げることができたように感じた。
<p>コロナウイルスに対する衛生管理の知識を高める</p>	<p>☆正しい知識を身に着ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に発信している正しい情報を理解しながら保育に努める。 ・多くの人が触れる場所の定期的な消毒と換気 ・ソーシャルディスタンスの確保(食事・保育・午睡)
<p>【自己評価】 「B」</p>	<p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度もコロナ状況により、様々な制限などはあったため、室内行事などは多くの保護者の理解や協力をいただき、開催に繋がられた。次年度は、コロナの分類も変更となることから、園行事もより開かれた内容で進めていこうと考えている。 ・園児が行う行事に関しては、行事前にコロナに対する情報を確認しながら行うことができた。また、その活動を通して、子ども達にも多くの保育経験に繋げることが出来たと感じた。 ・これまでのコロナ対策を得ながら、保育や行事の開催方法を模索し、大きな集団感染とはならず保育を行えたことは、職員一人ひとりの衛生管理に対する意識と日々の行いと感じている。また、これも保護者の方の理解と大きな協力があった園運営を行えたと感じている。

3 評価項目の達成及び取組み状況について（※各個人の自己評価チェックリストによる）

（A：成果が上かった。B：ある程度成果が上がった。C：もう少し努力が必要。D：改善が必要。）

評価項目	達成及び取組み状況
<p>「教育保育の計画性」について</p> <p>自己評価 「C」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでと同様に園で作成している、いちいの保育や教育保育課程・指導計画をもとに、計画性をもち保育の理解を深められるよう取り組んできたが、日々の業務の中で目標としてきた基準までには、達することが出来なかった。 ・保育の立案・準備には、保育教諭の育成と確認のため、多くの時間を使用し進めてきたが、計画性という点においては、もう少し効率的に行えるよう今後の課題として残る。 ・環境構成については、次年度に向けて新たな課題や取組み方法の改善点も見つかっているため、それらを生かした保育へ繋げていけるよう取り組んでいきたいと考えている。
<p>「教育保育のあり方、幼児への対応」について</p> <p>自己評価 「C」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が一人ひとりの子どもたちの気持ちに寄り添い、丁寧に関わろうとする意識は感じられた。 ・しかし、集団としての気配り・配慮の甘さや援助としての指導を優先することは、保育者の資質として大きな問題とを感じる。また、普段の保育の中でも保育者として気になる言動が見られるため、今後も引き続き、職員一人ひとりと向き合いしっかりと指導していく必要がある。
<p>「保育者としての資質と能力」について</p> <p>自己評価 「C」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学園主催の研修（絵本・新人・中堅・管理職）や専門性の研修を受講したりと、各自の資質と能力を高めるための学びは、行えたと感じた。 ・今年度は、オンライン研修が主であったため多くの機会を活用して学びに繋げることが出来た。 ・保育者自身を振り返るためのセルフチェックリスト「子どもを尊重する保育」を活用し、保育者としてあるべき言動を見つめ直し保育者育成に努めた。
<p>「保護者への対応」について</p> <p>自己評価 「C」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な対策と検討は行ったものの、やはり今年度も行事においては、参加保護者の制限をせざるを得ない状況であったことは、残念であった。しかし、この件について、次年度は大きく変更できるものと考えている。 ・保護者への配信物については、これまでの反省を受けて、誤字脱字、記載内容のミスがないよう努めたが、改善には至らず、大きな反省として残る。より綿密な確認と配慮は今後も必要と感じる。 ・保護者への丁寧な関わりや配慮はある一定で評価は出来ると感じるが、専門性や職業に対しての認識をより高めるためには、よりきめ細やかな対応と心掛けが必要と感じる。
<p>「地域の自然や社会との関わり」について</p> <p>自己評価 「B」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者対応、自然災害に備えたあらゆる状況に合わせた訓練は行った。 ・例年実施している、厚別西小学校との交流では、可能な限りこれまで通りの内容で実施できた。また幼保小連携においても、少ない機会ではあったが、交流をもつことで、地域への学びに繋がった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ある一定の職員間のみでの交流や知る機会となったため、次年度はこの点についても職員の自覚を高めより積極的に参加できるよう進めていきたい。
「研修と研究」について 自己評価 「B」	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研究については、今年度の研究保育テーマ「子どもの意欲や興味関心をひきだし、積極的に遊びを展開していくための保育を考える」は本園の環境や自然が子どもの持つ大きな力を発揮する環境や玩具の大切さに気づき大きな学びを深めることは出来た。しかし、その中では新たな着目点となる今後の課題も多く発見したため、保育者自身の教養や資質向上のため、実りある研究実践をこれからも継続して行いたい。 ・今年度は少しずつ対面研修も増えてはきたものの、オンライン研修を中心に出来る限り意識して参加することは出来た。

4 今後取り組むべき課題

課 題	課題設定の理由
① 円滑な園運営	<ul style="list-style-type: none"> ・春よりコロナへの対応が緩和されるため、これまでの経験を生かしながら従来の園生活を過ごすため、綿密な打ち合わせと保育の見直しを行う。 ・行事・保育の意図を伝えることで、職員間での意識向上に繋げ、円滑な保育や創意工夫した実りある保育へと繋げられるよう意識する。
② 子どもへの援助と発達支援について	<ul style="list-style-type: none"> ・職員一人ひとりが子どもの育ちや姿をしっかりと見つめ、適切な援助や支援を行えるよう、主任を中心として職員間でも情報を共有し連携を取りながら、子どもの成長に繋げていけるよう進めていく。 ・保育者中心ではなく、あくまでも子どもの意欲を大切にするための、保育について学ぶ機会を設ける。
③ 保護者対応と連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者理解という点においては、これまでも努力はしてきたが、まだまだ課題や改善点もあるため、今後は開かれた園を意識して理解に繋がるよう努める。 ・お手紙や配信物を通して、より保護者理解へと繋がるよう、時には保護者の方の声を聞きながら、書物に反映できるよう努める。
④ 保育環境や玩具の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの主体性を育む大切な遊び。それは、環境と玩具が重要であるため、それぞれの環境構成を見つめ直し、工夫する。 ・学園で選定している、玩具の基準とも照らし合わせながら、子どもたちの成長への学びも深める。